

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：環境管理推進費

事業名【新】アーバンベアモニタリング調査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境生活政策課 生物多様性係 電話番号：058-272-1111(内2922)

E-mail：c11260@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000千円 (前年度予算額：0千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額	5,000	5,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・県は、農林業や人身被害など、ツキノワグマと人間の軋轢を軽減することを目的とした第二種特定鳥獣管理計画(ツキノワグマ)を策定している。
- ・県は、第二種特定鳥獣管理計画において、県内のツキノワグマ生息状況調査を実施するとともに、人身及び農林業被害の状況に応じて、随時生息状況調査をすることとしている。
- ・令和5年度は、全国、そして県内においてもクマの目撃件数が多く、人身被害についても多発し、県では初めて「ツキノワグマ出没警戒情報」を発令した。
- ・クマの秋期の主なエサであるブナ、ミズナラ、コナラの堅果(ドングリ)類についても近年凶作の傾向が続いていること等の生息環境の変化から今後も警戒を強化する必要がある。
- ・現在のクマの生息調査は、広域的な生息数の推計であり、ある特定の地域における生息数の把握ができていないため、個体識別調査を実施して正確なクマの生息数を把握する必要がある。
- ・生活環境の変化から、恒常的に市街地へ出没するクマ(アーバンベア)が全国的に問題となっており、県内でも市街地での人身被害等が懸念される。
- ・調査によって得られた結果は、市町村の鳥獣被害防止計画へ反映させ、研修会や普及啓発等に使用する。

(2) 事業内容

市街地出没が懸念される1地区林内に30基のカメラトラップを設置し、個体の斑紋を撮影。周辺地域で捕獲された個体の斑紋と調査で得られた結果を照合し正確な地域個体数を把握することで被害防止を図る。また、その調査結果から人身被害防止のチラシやパンフレットを作成し、普及啓発を図る。

- ・調査時期：クマの市街地付近での行動が活発になりやすい5月～8月頃
- ・調査地域：クマの出没やクマによる人身被害が多く、市街地出没対策が喫緊の課題となっている飛騨地方での1地区を予定
- ・調査方法：専門業者へ委託(分析の際は、岐阜県野生動物管理推進センターの助言を得る)

(3) 県負担・補助率の考え方

国10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	84	現地調査指導・助言
旅費	44	講師費用弁償
需用費	182	消耗品費
委託料	4,690	アーバンベアモニタリング調査委託
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ツキノワグマ第二種特定鳥獣管理計画（R6～R10）

(2) 国・他県の状況

- ・国は、特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン（クマ類編）改訂版において、被害を発生させたり、市街地等に出没を繰り返す特定の問題個体を選択的に排除することが重要であるとし、そのために、都道府県は市町村等から情報を収集して、モニタリングを行うことが重要としている。
- ・恒常的にクマが出没する、北海道や岩手県、宮城県、秋田県、山形県では県の研究機関や委託によって、全域が網羅できるようカメラトラップや他の調査方法を用いて継続的に調査を実施。
- ・中部圏域では、長野県、滋賀県で毎年場所を変えて調査しており、静岡県においても予算要求中である。
- ・令和5年度の全国でのクマ類による人身被害の発生件数は過去最多となっており、人身被害の発生を抑制するための対策の強化が喫緊の課題となっていることから、国は令和5年度補正予算「クマ緊急出没対応事業」によって特に被害が深刻な地域を緊急的に支援する。

(3) 後年度の財政負担

- ・クマの市街地出没や被害の状況に応じて、後年度は県での継続した負担が想定される。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県が、県民の人身被害等を防止する目的で調査を実施し、各市町村等の被害防止実施のために共有する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ツキノワグマの生息調査を人身被害リスクのある地域を絞って正確に実施し、アーバンベアを把握。市町村等の被害防止機関と共有し、捕獲や被害防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

施策を推進するための調査業務が主であり、目標の設定に適さない。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<hr/> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない

(評価)

- ・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

- 3 : 期待以上の成果あり
- 2 : 期待どおりの成果あり
- 1 : 期待どおりの成果が得られていない
- 0 : ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか)

- 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項
- ・ 群れの状況に応じた捕獲について、モデル事業を通じて市町村に周知する。

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など